

グッドデザイン賞特別号

2012年度  
グッドデザイン賞受賞!



# Monthly HABITA 082

上の写真は今年度グッドデザイン賞を受賞した「HABITA 神東の家」です。住宅展示場と地域の交流の場という2つの側面を持ち、地域の上質な住宅の手本であるべきとして設計されました。

HABITAがグッドデザイン賞を初めて手がけた2008年から早いもので今年で5年目となります。4面では今までの受賞歴を紹介しています。HABITAではこれからも古き良き知恵を現代の技術で生かし、人にも環境にも優しい豊かな住まいを提供してゆきます。

連載

くらしのニュース  
住まいのオーダーメード館403



GOOD DESIGN

## 2012年度グッドデザイン賞受賞!

5年連続9商品目

10月1日に2012年度グッドデザイン賞が発表されました。同賞は1957年に創設された日本を代表するデザイン評価推進の制度です。今年度HABITAでは神東建設のハウジングギャラリーとして建設された「HABITA 神東の家」が高い評価を受けました。HABITAでは今回で5年間連続、9点目の受賞となります。

といつ5つの言葉を理念として掲げています。選ばれたデザインとは単に見た目がいいだけのものではなく、同時に社会や環境への貢献度や新しい価値観の創造性が求められるのです。「くらしを、社会を、豊かにしうるのか」というデザインの効果・効能という視点から評価が行われています。

私たちの暮らしをとりまく1000点を超える優れたデザインに、一度に触れることができる嬉しいこの機会。是非脚を運んでみてはいかがでしょうか。

### グッドデザイン賞とは

グッドデザイン賞を受賞した事を表す四角い「G」をモチーフとした赤いマーク、「Gマーク」をどこかで一度は目にしたことがあるのではないでしょうか。

グッドデザイン賞とは公益財団法人日本デザイン振興会(JIDPO/東京都港区)が運営する日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度で、年に一度優れたデザインの物事に送られます。対象はこまごまとした生活用品から車や建築物、ビジネスモデルや研究開発等、多岐に渡っており、優れた物を評価し広める事で社会全体をより豊かなものへと導く事を目的としています。

同賞は「人間・本質・創造・魅力・倫理」

### 受賞作品が大集合! グッドデザインエキシビション2012

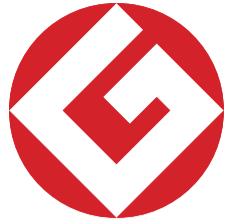
厳選なる審査を通過し、見事グッドデザイン賞を受賞した商品を一堂に集めて一般公開するイベント、グッドデザインエキシビション2012が11月23、24、25日の3日間に行われます。昨年までの「グッドデザインエキスポ」は二次審査をかけたイベントだった為、全受賞デザインだけを展示するのはこれが初めての試みです。会場では受賞企業によるセミナーやワークショップ等デザインに関する企画が盛りだくさん。最終日には特別賞の発表もあります。



2011年度グッドデザインエキスポの様子

### グッドデザインエキシビション2012

期間:2012年11月23日(金/祝)~25日(日)  
10:00~19:00(最終日16:00終了)  
入場は30分前まで  
会場:東京ビッグサイト 東第4ホール  
入場料:一般(高校生以上)1,000円  
中学生以下無料



**GOOD  
DESIGN**

今年度、HABITAは神東建設株式会社のハウジングギャラリー「神東の家」が高いデザイン性と後世に長く残すことができる優れた建築物として高く評価されました。

住宅展示場は住宅購入者が比較検討をするための場ですが、こうした展示場が地域に貢献できる機会はあまりなく、しかしながら住宅建築は周辺環境や地域との交流から切り離せないという矛盾がありました。

「HABITA 神東の家」はモデルハウスや展示場という表現ではなく、ギャラリーという位置づけを行い、木の香り溢れる地域のコミュニティ空間を提供する新しい建築物です。

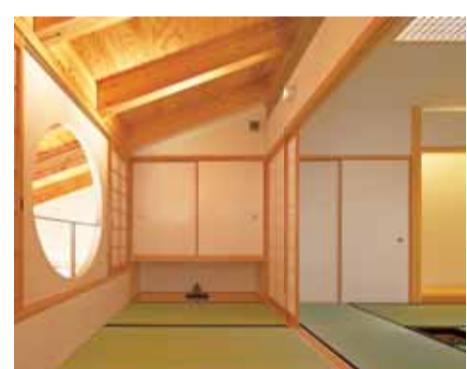
第一に住宅展示場としての役割、実物を見て現実の住まいを考えることができ、美しくお手本ともなるべきこ

# 2012年度 グッドデザイン賞受賞!

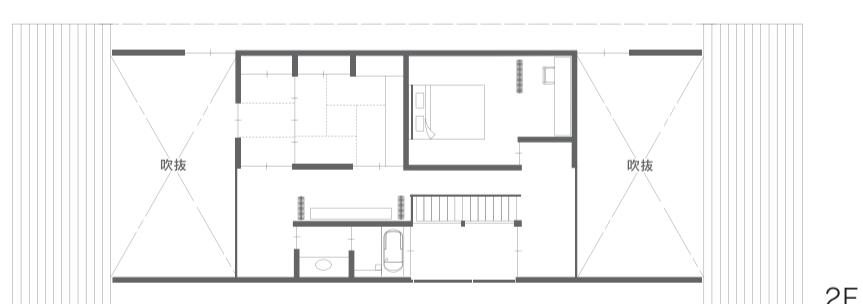
**HABITA 神東の家**

だわりが細部に施され、そして周辺の街並みに調和し、なつかつ地域のシンボルともなる外観であること。そして第二にギャラリーとして地域交流の場として大いに活用できる場であること、を軸に建設されています。

また伝統工芸保護の観点からもいたるところに匠の技を配し、年々減っている職人の技を訪れた人々に伝えるという役割も担っています。近年工場生産に押され、職人の数は減っていますが、質の良い住宅とは何人もの職人が協力して作り上げるもの、ということを忘れてはならないのです。活国産材の木の風合いを体感でき、地域材や伝統工芸を愛し、住まいに表現する心を、この場に訪れることで感じることのできる住空間とコミュニティ空間が共存する建築です。



**見 本**



2F



1F

## ■デザイナー

神東建設株式会社 常務取締役 横田範弘

## ■デザイナーからのコメント

阪神淡路大震災から学んだことは人の繋がりの重要性でした。このコミュニティー住宅は失われつつある日本のよき伝統を体感しながら、地域の絆・文化・アート・教育を育むことを目的としており、地域のシンボルになるべく地域材・100年存続することが前提とした構造を採用し、いつの時代にも美しいデザイン、懐かしくも新しいファザードに情熱を注ぎました。

## ■グッドデザイン賞審査委員による評価コメント

シンプルな大屋根に統合された全体の形態、薄い庇を配し端正に整理された開口部周りは、伝統的な日本の住宅のリ・デザインの外観をもち、商品化住宅として質の高い汎用性を示している。また、フロアプランも屋根の形状と無理なく連動したのびやかな構成となっている。さらに、里山の維持を目的として国産材を構造体に使用し、柱と梁を格子状に規則正しく配置した設計によって、解体・再生を可能している点などは、サステナブルなデザインとして高く評価できる。

**HABITA 神東の家**はここで見れる!

〒658-0027

兵庫県神戸市東灘区青木5丁目12-34

神東ハウジングギャラリー

阪神電鉄本線「青木駅」から徒歩5分

定休日:火曜日・水曜日

お問い合わせ:0120-451-558



# キニナルマドリ

贅沢な高さのある家

HABITA さいたまスタジオ

上部には北側いっぱいに小屋裏収納

プリッジになつてい  
る廊下からは、見晴  
らしバツグン!

4.5帖  
7.5帖  
12帖

12帖の洋室は、  
将来2つの部屋に  
分けられる様に  
ドアは2つ。

プリッジの  
バルコニー。

2階



大空間の  
吹き抜け空間。

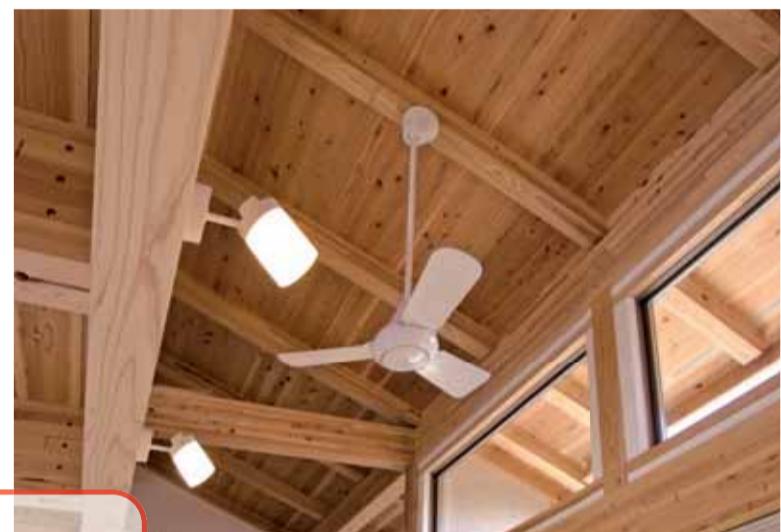
何かと便利な  
4.5帖の和室。



1階

見  
本

建築場所:埼玉県川越市  
建築面積: F 59.04m<sup>2</sup> 2F 49.85m<sup>2</sup>  
TOTAL 108.89m<sup>2</sup> (ロフト含まず)  
建築会社:HABITA さいたまスタジオ



## 使いやすい玄関のコツ

毎日家族を送り出す玄関。余裕を持って気持ちよく出かけたいと思っていても、いざとなると毎日時間ギリギリ、ドタバタしてしまってはいませんか。もしかしたら玄関の一工夫で、解決の糸口が見つかるかもしれません。

### ▶姿見はタタキに

外出前の服装チェックの為に

玄関に鏡を置いているご家庭は多いと思います。せっかくなれば頭からつま先まで全身が映るものをタタキに置きましょう。靴も含めたコーディネイトを即座に見る事が出来ます。

### ▶お出かけセットは揃えておく

ハンカチやティッシュなど、出かける時に必ず必要となるものはセットにして靴箱の引き出し等に入れておくと便利です。靴を履いてから慌てて戻ることもありませんし、子どもに癖をつけさせる懸念としても有効です。

### ▶靴箱の居所

靴箱はもちろん玄関にあるものです。でも、タタキとホール、どちらに置いた方が便利なのでしょうか。これは

それぞれに一理あります。靴箱をタタキに設置した場合の利点はなにより履物に付いた泥が落ちてもかまわない事でしょう。靴をあれこれ選んで履き替えるのにも便利ですし、小さな子どもが自分で靴を出す場合もこちら



の方が安心です。しかしタタキに一步踏み出さないと履物が取れない、ということもお忘れなく。逆にホールに置いた場合はタタキに降りずにすんなりと靴を取り出す事ができるのでスムーズという利点があります。こちらは綺麗好きな方に向いているでしょう。またスペースに余裕があるようでしたらタタキとホールをまたいで靴箱を設置すると両者の長所を生かす事ができ、収納も十分確保できるのでお薦めです。

靴箱の居所を決める際には自分に合う使いができるものを選んでください。



住まいの  
オーダーメード館

## 木のフロアレール

高齢化社会を迎えて、安全性を考えた住まいづくりの重要性が高まっています。

お年寄りだけでなく、お子さまや妊婦、病人の方々が安心して暮らせる環境をどう整えるかが、これから課題であり、段差解消も

大きなテーマです。

洋室のレール部分の段差によるつまずきや転倒を防ぐために開発されたのがフロアレールです。レールがスッキリと床に同じみ、段差が生じないので安心です。「木」ならではの風合いで木目も美しく、ビニール・金属性に比べて走行音も静かなことも隠れた効果です。

床にも敷居にも使える兼用タイプで、フロアレールは1本、2本、3本レールの3タイプ。床に段差をつくらない

ので、ドアをはずせば2つの部屋をオープンスペースとして使えます。襖の取りはずしによって、仕切られていた部屋をひと間として利用できる和室と同じ感覚です。

洋のライフスタイルに、和の知恵を活かしてみませんか。



### 住まいのオーダーメード館 403

東京都新宿区新宿1-2-1-1F

<http://order403.com/>

403

検索

サイズ:6×20×1930mm  
材種:積層強化木製  
色:レッドブラウン  
価格:¥3,570/1本レール・30本入り(税込)~  
403掲載商品No. G-0289\_004



**2008年**

岩瀬牧場



**SORA・MADO**



**2009年**

**SORA・MADO  
さんぶ**



**2010年**

みんなの家

**長官賞受賞**

松江堀川モデル

インテリア  
キャビネット



**2011年**

土・間・土

復興住宅



**2012年**

神東の家



### 世界の人が共感する家

日本の風景にも西洋の景観にもとけ込み、誰もが懐かしいと感じる「原風景」には、時を忘れ、国を忘れるほどに共通した家がある。小屋裏のある大きな屋根、その勾配に沿って高くなっていく天井。木肌がすぐ身近に感じられる大断面の柱や梁。たとえ、歴史の中の風景にあっても負けないその存在感は不思議な居心地を感じさせる。その

肌合いに触れ、香りに安心を覚え、木目を見ても、叩いた音を聞いても、五感で感じる居心地こそ、人が本能的に感じる快適さに他ならない。

自然の中でも都会にあっても、また日本でも世界でも、家に取り入れたい「風景」は変わらない。

人々の心の奥深くにある“たたずまい”それが岩瀬牧場である。

### 家の中に招き入れた「そら」

見上げれば誰の上にも存在する「そら」。その魅力は明るさであり広さであり、自由さである。「そら」に仕切りがないように、一度家の中に入れば視線の仕切りがない家族の空間が広がる。「そら」からの光や空気は、拡散し反射して家の中にも届く。しかしカーテンで仕切り、壁で仕切つて生活を細切れにするスタイルが、いつの間にか日本の家

に感染していった。「出居」のようなアウトドアとのつながりを大切にしてきた先人の「そら」との付き合いが失われてしまったのだ。SORA・MADOは、部屋ごとの固定化した呼称をやめ、シンプルなスペースの用途を住まい手に委ねた。基本となる空間にといえば「そら」に勝るものはない。『simple is basic』

### 「そら」の下には平等がある

「そら」から降りそぞろ光は反射を何度も繰り返し、ときには透過して家の奥までたどりつく。障子越しや窓越しに「そら」のかけらを見いだすと無性に嬉しくなる。動きのある木の葉の影や、まっすぐな軒先の影。さまざまな影もまた「そら」が生み出したもの。日本の豊かな春夏秋冬の「そら」を家の中に招き入れた。

戸建の魅力のひとつは庭があること。家の空間だけではない、大地とのつながりの中で培われる安らぎというものがいる。高くてひろい「そら」と大地の接点として建てる家は、平屋で建てるのもっとも贅沢なことかもしれない。

地に近い暮らしを取り入れた平屋のSORA・MADOは、隣の家の軒下から眺めても、風景を壊すことのない環境にやさしい家である。

### ここは、みんなが集まる家

情報時代は新しいコミュニティが生まれる時代である。知縁が生まれる時代であり、無縁社会では決してない。知縁で結ばれた友だちは家族のように接し、家族も友だち化する。家族の絆は、もっとゆるやかで心地良い「みんなのルール」に移行する。玄関は内側開かれ、ダイニングリビングは人の集まるカントリーとなる。

個人の部屋はより平等になり、子どもにとっては家全体が勉強部屋になる。2階の空間は1階よりも広く、さまざまな家族の関係を自由に描いて変えてゆけるデザインフレームこそが大切である。

家族と友だちをあわせた「みんな」のための家のデザインは、新しいライフスタイルを受け止め、生み出す家となる。

### 古民家のエッセンスを生かし100年後の再生を目指す

松江城の堀割りは、古来から堀川と呼ばれ、その周辺には、今でも多くの屋敷が残っている。小泉八雲の居宅から始まり並ぶ家々は堀川沿いの松並木と合わせて、数百年の歴史を経て築かれてきた。堀川モデルは、この町並みの中に建てられる現代住宅のあり方として追求したものである。ただし、単なるデザインの調和を狙つたものではなく

く、またデザインを踏襲し継承することでもない。これらの古民家が現存するのは、残されるべきデザインであるとともに、根底にある建造物としての基本が守られている。

平成の時代に建てられた家が100年後に古民家として再生してゆく、その基本となるデザインフレームからの考案である。

### 「現し」の部屋に似合う家具収納

家や部屋に合わせた造り付け家具という概念と、様々な用途に対応できる建具という考えを融合させた、家具収納。現しのインテリアに合う扉の仕様は、ランダムマッチの柾目が美しい栓の木、富士吉田の先染め伝統工芸の富士山織、環境素材のオレフィン。

日本の伝統的な住まいが、夏冬に襖や障子を入れ替える空間に変化を生み出してきたように、組み合わせによるデザインバリエーションが楽しめる。

間仕切りとして建具の障子や襖を置くように、かわりにキャビネットを活用することで家族構成や暮らし方の変化に柔軟に対応することもできる。キャビネットが空間を仕切るパーテーションとなる「収納は建具」というコンセプトの家具収納。

### 空がある土間の家

家が建つ前の自然の風景には、大地と大空しかない。家というのは、いわばその間に割り込む人口の造形物であり、そこに人間は快適性を求め、自然に抗うようにして異なる環境を作り出そうしてきた。しかし進化し続ける現代技術による強固なシェルターに住まうのでは窒息してしまう。大地と風を味方につけ、自然への開放感あふれる新しい

住宅の可能性を秘めたデザインを考えた。冬の昼の日差しをダイニングからリビングまで、一階ほぼ全体に広げた土間に取り込んでおけば足もとまで温かい。また夏にはテッキの上までが一体となり、風の抜ける涼しい場所へと移ろう。

同時に大空へ大きく開くことで大地と大空を同時に感じることができる。この自然への開放感はなものにも代え難いものである。

### 未来志向の災害復興の住まい

東日本大震災では甚大な人命と家屋の被害があった。世界に向けて日本人はまた新しい復興への手本を示さねばならない。今回の被害の多くは津波によるものであり、地震とは違い住宅そのものの対策は難しい。しかしエネルギーの問題も含めて住宅のあり方を問う機会もある。その意味では本来の住宅のあり方を見つめ直しながら、

住宅の一つの様式として日本民家の復興を目指したい。

大震災の復興住宅は東日本だけではなく、未来的な日本に向けてのメッセージとして残してゆくことである。

### 地域のコミュニティ住宅

住宅展示場は住宅購入者が比較検討するための場であるが、こうした展示場が地域に貢献できることは少ない。住宅建築という視点からみて、周辺環境や地域との交流は切り離せない。周辺の街並みと調和するよう、インテリアと外観において細部までこだわりを施し、地域のシンボルとなるよう仕上げた。実物を見て将来の住まいを想像す

ることができる。さらにモデルハウスや展示場という表現ではなくギャラリーという位置づけをすることで、地域交流の場として大いに活用できる。

国産材の木の風合いを体感でき、地域材や伝統工芸を愛し、住まいに表現する心を、この場に訪れることが感じることのできる住空間とコミュニティ空間が共存する建築である。